# 概要

時刻変更用スクリプトのサーバーへの設置手順を記載した資料になります。

# 必須動作環境

|  |  |
| --- | --- |
| Windows PowerShell | Ver 3.0 以上 |

# クライアントサーバーへの設置手順

クライアントサーバーを経由してリモートサーバーの時刻取得、時刻変更が実施されるように設計をしています。

1. クライアントサーバー上に下記の2つのファイルを転送します。

・Change\_Datetime\_client.zip

・set-executionpolicy.bat

1. set-executionpolicy.bat を 管理者権限で実行します。エラーが出力されなければOKです。もしエラーが出力された場合は PowerShell を管理者権限で実行して下記のコマンドを実行します。

|  |
| --- |
| Set-ExecutionPolicy RemoteSigned |

1. Change\_Datetime\_client.zip を任意のディレクトリに展開します。
2. 展開されたアーカイブの構成が以下のようになっていることを確認します。

Change\_Datetime\_Client

　｜－ conf/

　｜　　｜－ credential　リモートサーバーとの認証に使用するアカウント情報が記載されたファイル

　｜－ encrypt\_decrypt/

　｜　　｜－ AES256.ps1　ファイルの暗号化/複合化に使用される

　｜　　｜－ encryptdecrypt.ps1 上記同様

　｜　　｜－ Make256Key.ps1 ファイルの暗号化/複合化に使用するキーを生成する

　｜　　｜－ PSCrypto.ps1 上記同様

　｜－ Module/

　｜　　｜－ encrypt\_decrypt.ps1 スクリプトで使用しているモジュールです。

　｜　　｜－ Get-Logger.ps1　上記同様

　｜　　｜－ init.psm1　上記同様

　｜　　｜－ string\_operation.ps1　上記同様

　｜－ Scripts/

　｜　　｜－ get\_servernow.ps1 リモートサーバーの時刻を取得するスクリプト(ドメイン環境用)

｜ ｜－ get\_servernow\_workgroup.ps1 リモートサーバーの時刻を取得するスクリプト(ワークグループ環境用)

　｜　　｜－ set\_servertime.ps1 リモートサーバーの時刻を変更・時刻同期の有効化を行うスクリプト(ドメイン環境用)

｜ ｜－ set\_servertime\_workgroup.ps1 リモートサーバーの時刻を変更・時刻同期の有効化を行うスクリプト(ワークグループ環境用)

　｜　　｜－ server\_list.json　リモートサーバーに関する設定ファイル

　｜－ setup\_client.ps1　ファイルのインストール、各種必要な設定を行ってくれるスクリプト

1. conf/credential を ノートパッドで開きます。右辺にリモートサーバーとの認証に使用する ユーザー 及び パスワード を設定しておきます。編集後に上書き保存します。

User=<認証ユーザー>

Password=<パスワード>

Userの値は、エスケープ処理しなければならない文字列が含まれている場合は適宜エスケープしてください。例えば、 <domain>\<user> の場合、 <domain>\\<user> と設定する必要があります。

左辺の書き換えは行わないでください。

設定したユーザーとパスワードでリモートサーバーと認証できるかどうかについて確認したい場合は、下記コマンドをPowerSHellで実行してください。

|  |
| --- |
| $user = “ユーザー”  $plainpass = “パスワード”  $secure\_pass = ConvertTo-SecureString $plainpass –AsAlainText –Force  $cred = New-Objcect System.Management.Automation.PSCredential $user,$secure\_pass  $session = New-CimSession –Name test\_session –ComputerName <ホスト名> -Credential $cred  $session |

実行結果が出力されればリモートサーバーとの認証セッションの作成に成功しています。

1. Scripts/server\_list.jsonを ノートパッドで開きます。このファイルで時刻取得・変更するリモートホストの管理を行っています。

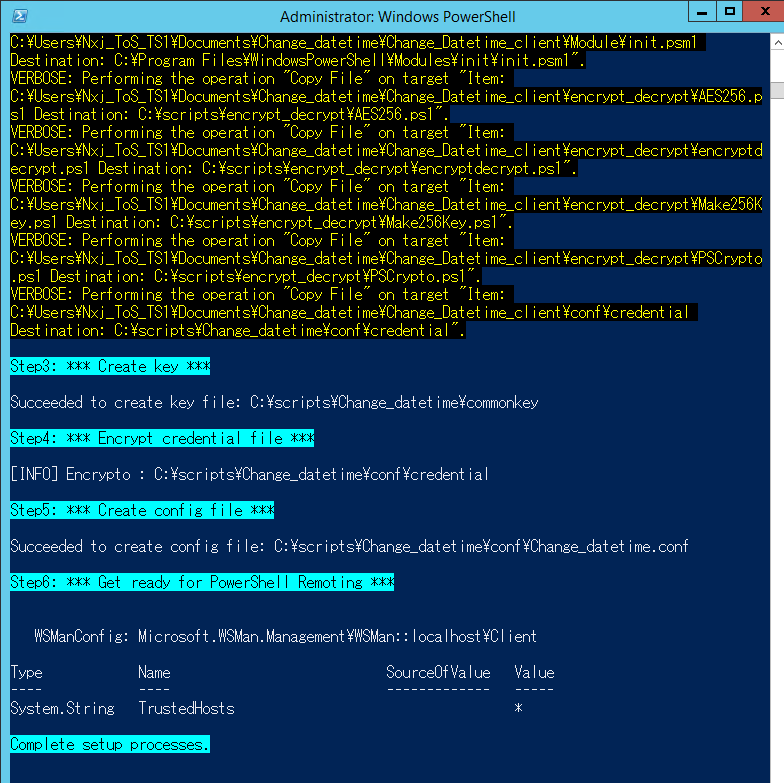
キー名は任意の名前、値は「ホスト名、またはIPアドレス」を設定します。

ここで設定したキー名は、時刻取得・変更スクリプトの Target パラメータの値に指定することになります。詳細は同梱の　PS\_時刻変更スクリプト仕様.docx　を参照してください。

この項目の実施はsetup\_client.ps1 の実行後、各種ファイルのインストール後でも構いません。

1. setup\_client.ps1 を 管理者権限で実行します。

実行した結果、エラーの表示なく下記のような表示となればファイルの配置や各種設定は正常に完了しています。



# リモートサーバーへの設置手順

時刻変更を実施したいサーバーに設置します。

1. クライアントサーバー上に下記の2つのファイルを転送します。

・Change\_Datetime\_remotehost.zip

・set-executionpolicy.bat

1. set-executionpolicy.bat を 管理者権限で実行します。エラーが出力されなければOKです。もしエラーが出力された場合は PowerShell を管理者権限で実行して下記のコマンドを実行します。

|  |
| --- |
| Set-ExecutionPolicy RemoteSigned |

1. Change\_Datetime\_remotehost.zip を任意のディレクトリに展開します。
2. 展開されたアーカイブの構成が以下のようになっていることを確認します。

Change\_Datetime\_remotehost

　｜－ Module/

　｜　　｜－ encrypt\_decrypt.ps1 スクリプトで使用しているモジュールです。

　｜　　｜－ Get-Logger.ps1　上記同様

　｜　　｜－ init.psm1　上記同様

　｜　　｜－ string\_operation.ps1　上記同様

　｜－ Scripts/

　｜　　｜－ change\_datetime.ps1 時刻変更を実施するスクリプト。(ドメイン環境用)

　｜　　｜－ change\_datetime\_workgroup.ps1 時刻変更を実施するスクリプト。(ワークグループ環境用)

　｜　　｜－ sync\_off.ps1 時刻同期を無効化するスクリプト。

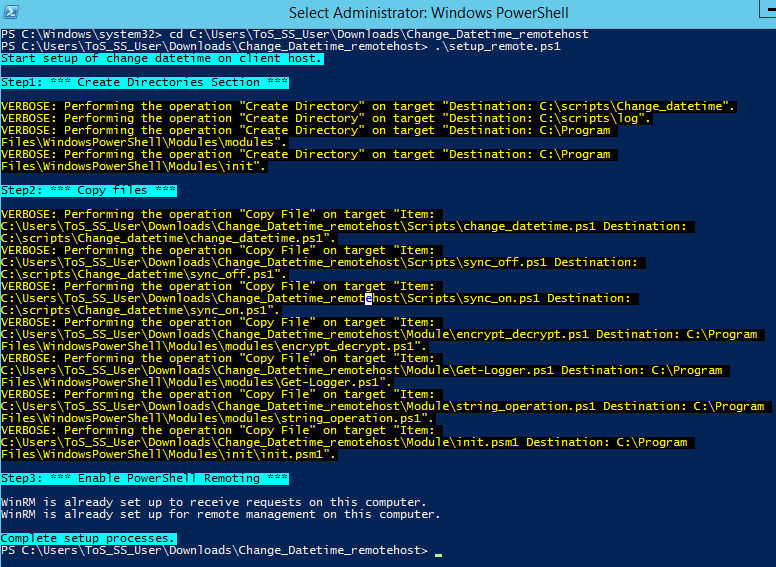
　｜　　｜－ sync\_on.ps1 時刻同期を有効化するスクリプト。

　｜　　｜－ sync\_on\_workgroup.ps1 時刻同期を有効化するスクリプト。(ワークグループ環境用)

　｜－ setup\_remote.ps1　ファイルのインストール、各種必要な設定を行ってくれるスクリプト

1. setup\_remote.ps1 を 管理者権限で実行します。

実行した結果、エラーの表示なく下記のような表示となればファイルの配置や各種設定は正常に完了しています。



# 動作確認

1. まずは現在時刻取得スクリプトの動作確認をします。クライアントサーバーのPowerShellを起動して、下記コマンドを実行します。

ドメイン環境：

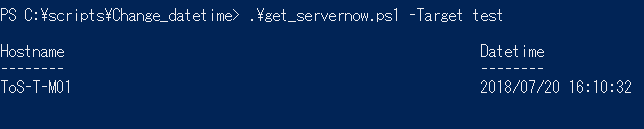
|  |
| --- |
| C:\scripts\Change\_datetime\get\_servernow.ps1 –Target <target> |

ワークグループ環境：

|  |
| --- |
| C:\scripts\Change\_datetime\get\_servernow\_workgroup.ps1 –Target <target> |

<target> は、server\_list.json に設定したキー名に適宜置き換えてください。キー名に対応する値(ホスト名またはIPアドレス)の現在時刻が取得されます。

1. 下記のような出力が返ってくれば正常に動作しています。



1. 次に時刻変更スクリプトの動作確認をします。クライアントサーバーのPowerShellを起動して、下記コマンドを実行します。

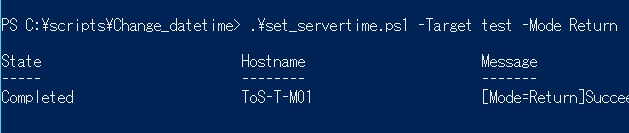
ドメイン環境：

|  |
| --- |
| C:\scripts\Change\_datetime\ser\_servertime.ps1 –Target <target> -Mode Return |

ワークグループ環境：

|  |
| --- |
| C:\scripts\Change\_datetime\ser\_servertime\_workgroup.ps1 –Target <target> -Mode Return |

1. 下記のような出力が返ってくれば正常に動作しています。



各種パラメータの説明や注意事項などは同梱の PS\_時刻変更スクリプト仕様.docx を参照してください。

# **IIS環境へインストールした場合の補足事項**

サーバー上で実行されるスクリプト、およびログが出力されるディレクトリに対して適切なアクセス権限の設定が必要になります。

アプリケーションプールの実行ユーザーは、各アプリケーションプールの設定により異なりますが、IIS6.0以上ではデフォルトでは ApplicationPoolIdentity(ApplicationPoolの作成時に同時に作成される仮想アカウント、アプリケーションプールごとに名前は異なります)です。

以下に必要な権限についてまとめました。

・C:\scripts\Change\_datetime\get\_servernow.ps1 の実行権限(ワークグループ環境であればget\_servernow\_workgroup.ps1)

・C:\scripts\Change\_datetime\set\_servertime.ps1 の実行権限(ワークグループ環境であればset\_servertime\_workgroup.ps1)

・C:\scripts\log の書き込み権限